

音声合成による聴覚障害者のプレゼンテーション支援

聴覚障害学生が自身で発表

- 聴覚障害学生が演習系授業や研究発表会において、**代読者の力を借りずに**、自分自身で発表が可能となるよう、ソフトウェアの整備や運用法の工夫を行った。

1

卒業研究の発表を支援

- 名称:岩手大学 人文社会科学部 人間科学課程 人間情報科学コース 卒業研究発表会
- 日時:2009年2月27日(金)
- 場所:岩手大学の一般教室
- 参加者:
 - 教員6名
 - 発表を行うコース4年生が本人を含めて16名
 - その他自由参加のコース2・3年生10名程度
 - コース4年生の1名がノートテイクを務めた

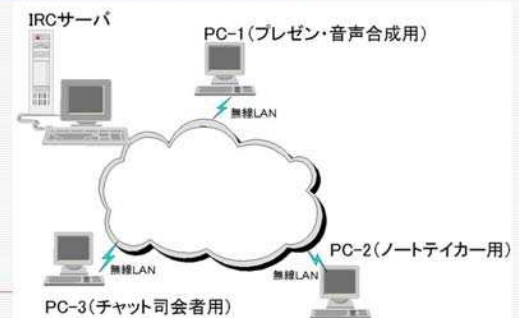
2

ソフトウェア環境

- 音声合成
 - 1)テキスト読み上げソフトウェア(EasySpeech: salo Software Labs.) →開発終了につき変更必要
 - 2)日本語音声合成エンジン(VoiceText: ペンタックス)
- チャット(無線LAN使用)
 - 3)IRC サーバ(ircd 2.10.3+jp6: Linuxで運用)
 - 4)IRC クライアント(Chocoa: 富士通)

3

ハードウェア環境



システム運用

- 本人が発表する場合
 - PC1でプレゼンを表示し、発声(オートパイロット)
- 本人が他人の発表を聞く場合
 - PC2でノートテイクが書き、本人が横で見る
- 本人が質問する場合
 - 本人がPC2で書き、
 - チャット司会者がPC3で読んで、発声
- 本人が質問を受ける場合
 - チャット司会者がPC3で会場からの質問を書き込み
 - 本人がPC2で書いて回答

5

達成感を感じ満足する結果

- 汎用的なソフトウェア(音声合成やチャットサーバとクライアント)だけを用いて運用を行い、聴覚障害学生が**達成感を感じ**ほぼ満足する結果を得ることができた。

6

問い合わせ先

遠藤教昭(岩手大学 人文社会科学部 人間科学課程)、小笠原朋美(岩手大学 学務部学務課)

URL: <http://www.hss.iwate-u.ac.jp/endo/index-j.html>